安全データシート(SDS)

1．製品および会社情報

会 社 名	：	昭石化工株式会社
住　所	：	東京都港区台場 2−3−2（担当部門：営業部）
電話番号	：	03−5531−7063（Fax03−5531−6811）

製品名　　ＵＰプライマーＥＣⅡ　粉体

2．危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

急性毒性	経口	：	区分外
	経皮	：	分類できない
	吸入（蒸気）	：	区分外
	（粉塵・ミスト）	：	分類できない
皮膚刺激・腐食性		：	区分外
眼損傷性・眼刺激性		：	区分外
呼吸器感作性		：	分類できない
皮膚感作性		：	分類できない
生殖細胞変異原性		：	分類できない
発がん性		：	区分１
生殖毒性		：	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)		：	区分１(呼吸器系)、区分２(全身毒性, 消火器)
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)		：	区分２
吸引性呼吸器有害性		：	区分外
水生環境有害性（急性）		：	区分外
水生環境有害性（慢性）		：	区分外

＊記載がないものは分類対象外または分類できない。

ＧＨＳラベル要素

絵文字またはシンボル　：

注意喚起語　：　危険

危険有害情報

危険有害性情報　　有害性　：　発がん性のおそれ
臓器(呼吸器)の障害
臓器(全身慢性・消火器)の障害のおそれ
長期にわたる又は反復暴露による臓器(呼吸器・腎臓)の障害のおそれ

環境有害性　：　特になし

化学物質等の分類（日本方式）　：　分類基準に該当しない。

危険性(物理的・化学的)　：　非危険物

特定の危険有害性　：　ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ(ｱﾙｶﾘ性)を含んでいるため、汗等水分を含んだ皮膚、眼等との接触により軽い炎症を起こす。

注意書き

安全対策	:	使用前に取扱説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 粉塵／ミスト／ヒューム／蒸気／ガス等を吸引を避けること。 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面／呼吸用保護具を着用すること。 汚染された作業着は作業場から出さないこと。指定された個人用保護具を使用すること。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 環境への放出を避けること。
救急処置	:	火災の場合には、消火に粉末、二酸化炭素、泡消火器を使用すること。 飲み込んだ場合は、水で口の中を洗い、直ちに医師の診断を受ける。可能ならば吐き出させる。 皮膚に付着した場合は、多量の水と石けんで洗うこと。汚染された衣類を全て脱ぐこと／取り除くこと。 皮膚刺激／発疹が生じた場合、医師の手当を受けること。 吸入した場合、呼吸が困難な場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 呼吸に関する症状が出た場合、気分が悪いときは、医師に連絡、診断を受けること。 眼に入った場合、水で十分注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当を受けること。 暴露または暴露の懸念がある場合、医師の診断、手当を受けること。
保管	:	直射日光、雨水を避け、施錠して保管すること。
廃棄	:	内容物や容器は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

３．組成, 成分情報

単一製品・混合物の区分　：　混合物

化学名（一般名／別名）　：　ポリマーセメントプライマー用粉体

成分及び含有量　：　酸化カルシウム、シリカ

成分名	含有量（%）	化学式	CAS No.	官報公示整理番号	PRTR 法
酸化ｶﾙｼｳﾑ	0.9～1.0	CaO	1305-78-8	化審法 1-189/安衛法　該当	該当せず
ｼﾘｶ	2.4～4.1	SiO_2	14808-60-7	化審法 1-548/安衛法　該当	該当せず

４．応急処置

目に入った場合	:	直ちに大量の流水で 15 分以上洗い流す。洗眼の際、眼球とまぶたの隅々まで洗浄し、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼刺激が持続する場合は、速やかに医師の診察、手当を受ける。
皮膚に付着した場合	:	乾いた皮膚についた場合はよく払い落とす。大量の水及び石けん又は皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い流す。かゆみ、炎症等の異常があれば直ちに医師の診断を受ける。
吸入した場合	:	鼻、口の中を水で洗浄する。蒸気、ガスを吸い込んで気分が悪くなった場合、空気の新鮮な場所で安静にし、異常のある場合は医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	:	水で口の中を洗い、安静にして医師の診断を受ける。可能ならば吐き出させる。嘔吐物は飲み込ませないこと。他人が無理に吐かせてはならない。

５．火災時の措置

消火剤	:	粉末消火器、二酸化炭素消火器、泡消火器、乾燥砂が有効である。（この物自体には可燃性なし。）
特定の消火方法	:	不燃物質である。
消火を行う者の保護	:	不燃物質である。
火災周辺の措置	:	不燃物質である。

６．漏出時の措置

	：	通常の取扱い範囲では漏出しない。
人体及び環境に対する注意事項	：	飛散した周辺を立ち入り禁止とする。風雨による再飛散の恐れのある場合は、シート等によって覆う等の考慮をする。
除去方法	：	回収作業には、手袋・長靴・防塵マスク等の保護具を着用して、ホウキ、スコップあるいは吸引装置を使用して乾式処理を行う。
二次災害の防止	：	付着物・廃棄物などは、関係法規に基づいて処理をすること。

７．取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	：	換気の良い場所で取り扱う。(換気に注意)
取扱者の暴露防止	：	保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面等の保護具を着用する。取扱い後は、洗顔、手洗い及びうがいを十分に行う。
安全取扱注意事項	：	皮膚、粘膜又は着衣に触れたり、眼に入らないように適切な保護具を着用する。

保管

技術的対策(保管条件)	：	吸湿性があるため、湿気の多い場所や屋外での保管を避ける。

８．暴露防止及び保護措置

設備対策	：	取扱い場所は給排気が十分とれる設計とする。粉塵が積もらないような設計とすること。 取扱い場所の近くに洗眼、洗顔および身体洗浄のための設備を設ける。
管理濃度	：	(労働安全衛生法・作業環境評価基準)　3.0mg/㎥
許容濃度	：	日本産業衛生学会(2005 年版) [吸入性結晶質ｼﾘｶ]；0.03mg/㎥(TWA) [第 2 種粉塵]；吸入性粉塵 1.0mg/㎥(TWA)，総粉塵 4.0mg/㎥(TWA) ACGIH(2005 年版) [吸入性結晶質ｼﾘｶ]；0.025mg/㎥(TWA) [粉塵]；吸入性粉塵 3.0mg/㎥(TWA)，総粉塵 10mg/㎥(TWA)

適切な保護具

呼吸器系の保護	：	防塵マスクを着用する。
手の保護具	：	保護手袋を着用する。
目の保護	：	保護眼鏡を着用する。
皮膚及び身体の保護具	：	長袖作業衣、保護服及び保護長靴を着用する。

９．物理的及び化学的性質

物理的状態　形状	：	粉末
色	：	灰白色
臭気	：	なし
ＰＨ	：	水との接触したら　12～13
融点	：	約 1350℃
沸点	：	データなし
引火点	：	検出できない。
発火点	：	データなし
蒸気圧	：	データなし
密度	：	2.9～3.3(ｇ/㎤,23℃)
溶媒に対する溶解性	：	水に難溶。

１０．安定性及び反応性

安定性　：　水との接触で反応、固化する。

反応性　：　水や酸と反応する。水との接触で数百℃にまで上がる場合があり、$Ca(OH)_2$を生成する。

避けるべき条件　：　水や酸との接触を避ける。

混触危険物質　：　水や酸。

危険有害な分解生成物　：　水との反応で$Ca(OH)_2$を生成し、$Ca(OH)_2$の水溶液は強ｱﾙｶﾘ性を示し皮膚、粘膜を侵す恐れ。

１１．有害性情報

急性毒性　：　（経口）酸化ｶﾙｼｳﾑ(0.9～1.0%)；LD50 3059mg/kg、混合物として【区分外】に分類
（経皮）現在のところ有用な情報なし。混合物として【分類できない】
（吸入）酸化ｶﾙｼｳﾑ(0.9～1.0%)；　混合物として量が少ないので【区分外】に分類

皮膚腐食性/刺激性　：　酸化ｶﾙｼｳﾑ(1.0～1.5%)；区分１、混合物として量が少ないので【区分外】に分類

眼損傷/眼刺激性　：　酸化ｶﾙｼｳﾑ(1.0～1.5%)；区分１、混合物として量が少ないので【区分外】に分類

感作性　：　現在のところ有用な情報なし。混合物として【分類できない】

発がん性　：　ｼﾘｶ(2.4～4.1%)；区分１、混合物として【区分１】に分類

生殖細胞変異原性　：　現在のところ有用な情報なし。混合物として【分類できない】

生殖毒性　：　現在のところ有用な情報なし。混合物として【分類できない】

特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）　：酸化ｶﾙｼｳﾑ(0.9～1.0%)；区分１(呼吸器系)、区分２(全身毒性・消化器)
：ｼﾘｶ(4.0～6.8%)；区分１(呼吸器系)　混合物として量により【区分外】に分類

特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）　：酸化ｶﾙｼｳﾑ(0.9～1.0%)；区分１(呼吸器系)
：ｼﾘｶ(2.4～4.1%)；区分１(呼吸器系・腎臓)　混合物として量により【区分２】に分類

吸引性呼吸器有害性　：　酸化ｶﾙｼｳﾑ(0.9～1.0%)；区分１、混合物として量が少ないので【区分外】に分類

１２．環境影響情報

生体毒性　：　水性環境有害性；
酸化ｶﾙｼｳﾑ LC50(96hrs) 魚類ｺｲ　1070mg/L
・水性環境急性有害性混合物として；混合物として【区分外】に分類、
・水性環境慢性有害性；生分解性、蓄積性のデータより、【区分外】に分類(水溶解度 1200mg/L 難水性でなく毒性が低いこと)

残留性、分解性　：　酸化ｶﾙｼｳﾑ　現在のところ有用な情報なし。

生体蓄積性　：　酸化ｶﾙｼｳﾑ　現在のところ有用な情報なし。

土壌中の移動性　：　現在のところ有用な情報なし。

１３．廃棄上の注意

以下の情報を参考に分類の上、許可を受けた専門業者に処理を委託する。詳細は法律（廃掃法及び容器包装リサイクル法）に従う。

容器・包装の廃棄　：　空容器類を廃棄するときは、内容物を完全に除去した後に産業廃棄物として処理または回収する。
（　）に管理型・安定型の区分を示す。
外箱、紙管など紙製容器・包装：回収または紙くずとして処理。(単体で管理型産業廃棄物、付着成分がある場合も管理型産業廃棄物)
金属缶、金属ドラム、金属チューブ類：金属くずとして処理。(単独で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う。)
プラスチック製のボトル、チューブ、袋など：廃プラスチックとして処理（単独で安定型産廃、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う。）

１４．輸送上の注意

輸送の特定の安全対策及び条件 ： 取扱い及び保管上の注意の項の一般的注意に従うこと。
容器の漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、損傷の無いように積み込み、荷崩れの防止を確実に行うこと。

陸上 ： 消防法、労働安全衛生法、毒劇法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められる運送方法に従うこと。

海上 ： 船舶安全法に定めるところに従うこと。

航空 ： 航空法に定めるところに従うこと。

国連番号・分類 ： 該当しない

１５．適用法令

法規制 ： 化学物質管理促進法（PRTR 法）の該否については 3. 組成、成分情報内に示す。

安衛法；粉塵障害防止規則
じん肺法；第 2 条施行規則第 2 条別表粉塵作業
その他の適用法令；該当なし

１６．その他の情報

引用、参考文献 ：
JIS Z 7252(2014) GHS に基づく化学物質等の分類方法
国連 GHS 文書 改訂 5 版（2013）
独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE)ホームページ GHS 分類結果データベース
原料メーカーの MSDS
日本塗料工業会編集「原材料物質データベース」
国際化学物質安全カード(ICSC)
製品安全データシートの作成指針（改訂版）社団法人日本化学工業会(2001 年 10 月)
危険物船舶運送及び貯蔵規則 14 訂版 海文堂

含有量表示基準 ： PRTR 指定物質及び劇毒物は有効数字 2 桁。労安通知物質その他は 5%刻みの未満表示（10%未満の場合は 1%刻み）で表す。

・記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。なお、新しい知見により改訂されることがあります。
・危険、有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意してください。
・注意事項は通常の取扱いを対象としたものです。特別な取扱いをする場合には、用途・用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。また、本製品を本来の用途以外に使用しないでください。